

第5回 学校デザイン部会 会議報告

日 時:令和7年8月22日(金)

午後4時～4時45分

場 所:川岸小学校2階 ふれあい教室

○次 第

1 開会

2 議題

- (1) 義務教育学校のグランドデザイン(案)について
- (2) 日課表(案)について
- (3) 今後の検討事項について

3 閉会

○部会で出た意見

【議題1】義務教育学校のグランドデザイン(Ver.2.0)について

【主な意見】

- ・【認定こども園 教育目標】については、こども園部会で岡谷市保育・教育目標を議論しているため、改めて学校デザイン部会にも情報共有する。
- ・「学習・行事・交流活動(例)」として挙げられているが「(例)」はグランドデザインが決まれば、(例)は取るのか。また、行事の内容を見ると、運動会、音楽会など今と特段変わらない。川岸学園ならではの特色が欲しい。例えば、「こどもが作る運動会」など何か特色があった方がよい。
- ・学級担任制(单元テスト)、教科担任制(定期テスト)に、それぞれ「テスト」と表記されており、これも従来の教育を連想してしまう。子どもたちの主体的な学びのような特色があったらよいのではないか。
- ・学校運営の重点にある「剥がれ落ちることのない本物の学力」という表現とこれからの児童生徒の主体的な学びを重視するという点からもどこか違和感がある。
- ・【学校教育スローガン】にある「生き抜く力」の意味とは何か。「やり抜く力」、「折れない心」という意味合いなのか。「生き抜く」だとサバイバルのイメージが連想されてしまう。個人的には「ウェルビーイング」よりも「ベタービーイング」という言葉が好きで、「よりよく生きる力」ということを重視してきた。
- ・後期課程のステージに「花を咲かせる【調整力】」とあり、ここでの「調整力」の意味は何か？現在の西部中学校でもこの言葉は使用していないとのこと。未来を切り開く、人格形成、人間関係、社会など、さまざまなものを形成していく【形成力】の方が適切ではないか。
- ・【学校運営の重点】の中に「川岸」という言葉が出てこない。北中に川岸の出身者で元校長先生が現役でおり、伝言を預かってきた。地域に根差した学び、地域の教材に溢れているので、川岸を題材とした学習に力をいれてほしい。

- ・「川岸」でなくても学べることばかりなら、あえて川岸学園でなくてもよいので？となってしまう。
 - ・川岸の子ども達はたくましいという言葉が地域や保護者からよく聞く。今年のグランドデザインの学校教育目標も「たくましい子ども」とあるので、同じニュアンスの言葉で良いので、グランドデザインに引き継いでいったらどうか。
 - ・勉強において理解不足のまま進級して、ますます勉強についていけなくなり、取り残される子どもがいるとかわいそう。そういった子どもたちのために個別支援やクラス分けがされればよいが、今後子どもたちの人数も減っていけば、そのような対応も難しくなる。子どもたちが分断されてしまうのではと心配。
 - ・「自立」「挑む」「憧れ」「活動力」「強さ」「調整力」など、多くのキーワードが羅列されているため、何を最も大切にするのかが見えにくい。川岸学園では、これを最も大切にするという核となる言葉に集約し、全体を通して一貫性のあるデザイン出来たらよい。
 - ・今後、国型C・Sへ移行していく中で、グランドデザインも運営協議会の中で承認をもらうことになる。それを見据えて、教職員で共有したのちに、地域住民や保護者にもグランドデザインを見ていただいて意見をいただくことも必要だと思う。
 - ・このグランドデザインのみで地域や保護者の方に説明していくとなると分かりづらいのではないかな。より簡潔で分かりやすいダイジェスト版が必要である。
 - ・老若男女に分かりやすく伝える上で、冒頭の「根」「芽」「葉・枝・幹」「花」について、植物の成長を視覚的に訴えながら、「学校教育スローガン」や「学校教育目標」などの主要なキーワードを盛り込んだシンプルなものを作ったらどうか。
- ⇒部会員の宮澤穂乃香さんより、Ver.2.0 のグランドデザインを基にイラストを加えたダイジェスト版を作成したいとの申し出あり。

【議題2】日課表(案)について

- ・新たな日課表の提案がなかったため、次回以降の部会で検討。

【議題3】今後の検討事項について

【主な意見】

- ・学校の先生や部会の中で気づかない、子どもたちが学校に対して思っていることがあるかもしれない。子どもたちの意見を集めて、今後の学園の学校運営やカリキュラムに取り入れられるものがあたらよい。
- ・「川岸ならでは」の特色ある目玉となるものが必要。従来の「岡谷スタンダードカリキュラム」はやや形骸化しているところがある。「川岸ならでは」の学び、「川岸学」を考えるべきでないか。この学校だから行きたいと思ってもらえる内容が必要。
- ・「岡谷スタンダードカリキュラム」に上がっている素材を確認すると、これは川岸小学校、これは湊小学校だとやりやすいというのが必ずある。カリキュラムをそのまま踏襲するのではなく、地域の特性に合わせて、再編成していくことはできる。
- ・「岡谷スタンダードカリキュラム」は過去の出来事に対して、「昔はこうだった」というものが多い。今ある財産から未来を思考することが大事ではないか。例えば、

ウナギの養殖や三沢農園、ワインづくりなどいろいろある。未来を思考するような川岸学を考えたい。

・昔は各家庭でお蚕を飼っていて、今もその名残で川岸地区には桑の木がいろいろなところに残っている。こういったものを川岸学としてとらえ、川岸学園ではこんなことが学べるということがランドデザインに盛り込めたらよい。

○今後の検討事項

- ▶今回出された意見の内、以下の点を反映したランドデザインの作成を行う。
 - ・学習・行事・交流活動に川岸学園らしさ、特色を盛り込む
 - ・「川岸らしさ、川岸ならではの、川岸学」等、川岸学園だから学べる要素を盛り込む
 - ・ランドデザインに使われている言葉の精選、核となる言葉の選定

○次回の日程について

- ・ランドデザインの進捗状況を踏まえて、日程調整を行う。